

「楽しみと 新たな発見」

115A015 小泉 建人



本は人の心を動かすきっかけになるものの一つである。私は人生の中で大きな決断をする時に本を頼りにする事があった。そして、これからも本を頼りにする機会があるだろう。本を実際に手でページをめくって読むためには書店か図書館に足を運ぶ事が多いだろう。新しい本が多く揃う書店と新しくなくても様々なジャンルの本が揃う図書館。この図書館には学部や学科に応じた資料が数多くある。私はここで初めて出会った資料を読み何度も目を輝かせた。図書館は私が大学内で一番落ち着ける場所である。レポートを作成したり課題をするため、ONの気持ちを入れるためにも図書館は私にとって必要不可欠な場所だ。

入学当初から「図書館でアルバイトをしたい」という気持ちはあった。だが時間割の都合でそれを諦めてしまっていた。大学3年の夏季休暇中、自分の可能性を広げたいと感じ、学内で一番落ち着ける場所でアルバイトをしたいと思った事がきっかけで私はライブラリー・アシスタントに応募した。採用が決まり夏季休暇明けから勤務した私はこのアルバイトをきっかけに他の場所では体験できない事も多く体験し視野が広がった。書架整理は本が棚に綺麗に入っているかを確認したが途中で興味深い資料に出合う事もあった。勤務後にその資料を読み新たな世界観を作り出した。「来週はまた新たな本に出会えるだろうか」勤務後はよくそう考えていた。POP作成では自分の気に入っている本を紹介するためにその本の魅力を文字で表した。「自分の好きなものを多くの人に伝えるように考え工夫する作業」は一種の自己表現である。この自己表現は大学以外の場でも大切になる。そのための練習として良い機会になった。私はこれからもライブラリー・アシスタントを続け図書館に恩返しをしていきたいと考えている。「今度はどんな本に出会えるだろうか」このように思わせてくれる図書館にこれからも関わり続けたいと願ってやまない。

(欧米文化学科3年)